



自治医科大学医学研究科・事業推進部会からの報告

－ 第2回 自治医大医学研究科 大学院生ワークショップ －

基礎系大学院本務教員、大学院事業推進部会員 高橋将文

はじめに

大学院事業推進部会では、英語による研究発表会 第2回 大学院生ワークショップを企画し、平成28年9月16日に開催しました。本ワークショップの目的は、大学院生の英語発表への慣れと学生間の交流を促進することであり、当日の司会や座長は留学生を含む大学院生の有志によって行われました。主役の大学院生や大学院教育に関わる教員の皆様へ、参加状況やアンケート結果についてフィードバックいたします。

発表・参加の状況- 基礎系 vs 臨床・地域医療系、一般大学院生 vs 社会人大大学院生

全大学院生 135名のうち、29名(約21%)の参加がありました(図1A)。基礎系 vs 臨床・地域医療系で見ると、基礎系からは21名(基礎系学生の約64%、図1B)、臨床・地域医療系から8名(臨床・地域医療系学生の約8%、図1C)の大学院生が参加しました。学内で研究指導を受けている臨床・地域医療系一般コース47名のうち、参加者は6名(約13%)でした(図1D)。興味深いことに、発表大学院生は、基礎系からの方が臨床・地域医療系からよりも少なく(基礎系36%、臨床・地域医療系64%、図1E)、学外臨床系社会人コースの大学院生の参加もありました(図1E)。修士1年生(M1)の参加が無かった以外は、学年による参加割合の顕著な差は見られず(図1G)、参加のみの学生のほとんどは基礎系一般の大学院生でした(94%、図1F)。留学生の参加割合が高く、全22名のうち、発表者5名を含めて15名の参加がありました。

大学院生の参加状況

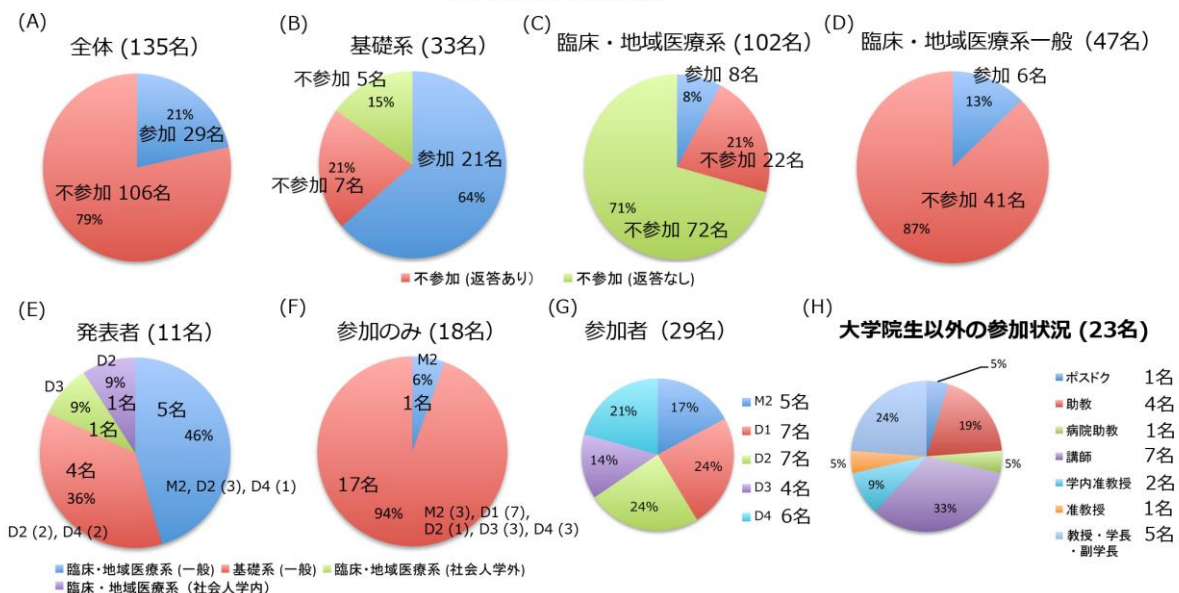


図1: 各グラフは、第2回自治医大大学院生ワークショップにおける参加状況を示す。

リレーレポート、事前アンケート、参加者アンケートから- 大学院生の意見について

- 1) なぜ英語での発表に挑んだのか? なぜ学生委員としてワークショップ運営に参加したのか? 第1回ワークショップ発表者・学生委員から後輩大学院生に向けてリレーレポートを書いてもらいました。ここでは省略しますが、大学院生自身が考え行動した経験についてのレポートなので、是非大学院生に読んでほしい内容です（詳細は、大学院生ワークショップ Web サイト <http://www.jichi.ac.jp/kisokei/workshop/> に掲載）。
- 2) あらかじめ不参加予定の学生に対して、ワークショップに対する期待や要望等について、**事前アンケート**をお願いしました (図 1B, C)。学外社会人大学院生からも現実的な意見がありました (アンケートより抜粋)。
 - 英語で発表する機会はめったにないので、いい経験が出来るプログラムだと思う (M2 一般)。
 - 自治医大シンポと同日開催でなく、少し期間がずれているとより参加しやすい (M2 一般)。
 - ワークショップ終了後に内容について何らかの形で知る機会があればよい (D1 社会人学外)。
 - 社会人大学院生にとっては平日でなく休日開催なら参加しやすい (D1 社会人学外)。
 - 開催時間が夕方だと、社会人大学院生も多数参加できるのでは (D2 社会人学内)。
 - 社会人大学院生で離島在住のため不参加ですが、英語発表の機会は限られている上に必要なスキルなので、このような機会を今後も増やして頂けると幸いです (D3 社会人学外)。
 - 全員ではないとは思いますが、スタートアップ、研究奨励賞、毎年の研究計画書・経過報告書、SEPS、大学院ワークショップなど実際の研究以外の発表準備、資料作成に費やされる時間も多い大学院の様な気がしますので、出来るだけ各人がまんべんなく参加できるといいとは思いますが (D3 一般)。
 - さいたま医療センターにも、今年から留学生が来て、時々簡単な会話をすることがありますが、自分の意見を英語で述べる機会は大切であると感じます (D4 一般)。
- 3) 当日の参加者アンケートでは、宣伝方法に関することや大学院生からの活発な反応を期待しているという意見がありました (アンケートより抜粋)。
 - もう少し学外 (卒業生) に声がかかればよいと思いました。将来はもっともっと活発な会になって行けばよいと思いました。学外にいるとこういう会のありがたみを痛感しました。
 - I want to participate in this workshop next year because this workshop is a good chance to summarize my experiments (research) and good chance to speak in English.
 - Nice presentation. But questions from audiences are poor.
 - I feel slightly boring because attendances of students are inactive. Want to have more active performance from students.

今後の大学院教育プログラムについて- 今後の課題と期待

大学院生の英語での発表は、皆さん上手く出来ていたと思います。きっと繰り返し練習したのでしょう。自治医大にはやればできる高いポテンシャルをもつ大学院生が集まっていると感じた反面、大学院生が大学院生に質問をすることは少なかったように思います。やはりワークショップということなので、当日は教員と大学院生が同等な立場になり、インターラクティブな研究発表会を作り上げることが理想ではないでしょうか? 今後は大学院生の自主的なイベントとしてワークショップを運営しても良いのかもしれませんが、まずは、大学院生自身が人前に立つ勇氣を持

って一歩前進し、ワークショップのような発表の機会や他講座大学院生との交流の機会に参加することで視野を広げて行って欲しいと思います。行動するかどうかを決めるのは自分自身です。一方、教員の役割としては、大学院生が自ら様々なチャンスに気づくように、自分の講座や他の講座に関係なく大学院生の背中を押してあげることも重要だと思います。アンケートでは、大学院生の立場の違いから開催時期や場所について多くの要望がありました。また、他の研究発表会との整理も必要なかもしれません。事業推進部会としては、大学院生、教員が楽しく議論出来る場を提供できるよう、今後も大学院イベントを提案していきたいと思います。アンケート集計に力を貸して下さった勝部恵さんはじめ、学事課大学院系の皆様に感謝申し上げます。

(事業推進部会：金田るり、木村博昭、神保恵理子、高橋将文、富永薫、中山一大、西村渉)